

施工15 左官・タイル・石工事

- 1 セメントモルタル塗りにあたり、下塗り直後は、乾燥を速めるため、窓を開け送風機を使用した。
- 2 壁の接着剤張りにおいて、接着剤の1回の塗付け面積は、60分以内に張り終える面積とした。
- 3 石工事における床用敷きモルタルの調合については、接着性を考慮して、容積比でセメント1に対し砂2とした。
- 4 モルタルの調合において、上塗りの強度については、モルタルが剥落しないように、下塗りの強度に比べて高めた。
- 5 タイル後張り工法の密着張りにおいて、壁のタイルの張付けは、上部から下部へと行い、一段置きに数段張り付けた後、それらの間を埋めるようにタイルを張り付けた。
- 6 セメントモルタル塗りにあたり、コンクリート床面への塗付けは、コンクリート硬化後、なるべく早い時期に行った。
- 7 セメントモルタル塗りにあって、骨材に用いる砂の最大寸法は、一般に、塗り厚の半分以上で、塗り厚に支障のない限り小さいものとする。
- 8 コンクリート下地壁のセメントモルタル塗りにあって、下塗り面には、金ぐしを用いて、荒らし目をつけた。
- 9 壁タイルの改良積上げ張りにおいて、1日の張付け高さは、2.5mとした。
- 10 冬期におけるアルミニウム合金製建具の枠まわりのモルタルの充填に当たって、充填モルタルが凍結しないように、塩化カルシウム系の凍結防止剤を混入した。
- 11 壁タイルの改良積上げ張りにおいて、張付けモルタルの調合は、容積比でセメント1：砂2.5とした。
- 12 壁の改良圧着張りにおいて、張付けモルタルの1回の塗付け面積は、60分以内に張り終える面積とした。
- 13 外壁の二丁掛けタイルの密着張りにおいて、張付けモルタルの塗り厚は、15mmとした。
- 14 壁のセメントモルタル塗りにあって、3回塗りの下塗り厚は、10mmとした。
- 15 ALCパネル下地へのセメントモルタル塗りにあって、左官塗りの下地としてのALCパネルは、強度・剛性とも小さいので、一般に、厚塗りとはしない。
- 16 外装に用いるタイル先付けプレキャストコンクリート工法において、タイルの接着強度の合格基準は、0.6N/mm²以上とした。
- 17 外壁乾式工法による鉛直面への張り石工事において、上下の石材間の目地幅の調整に使用したスペーサーは、上部の石材の荷重を下部の石材に伝達させるため、工事完了後も存置した。
- 18 コンクリート壁面へのモルタル塗りにあって、下地の不陸を調整する場合、つけ送りの1回の塗り厚については、7mm以内とした。
- 19 コンクリート壁のセメントモルタル塗りにあって、上塗りには、下塗りに比べて、セメントに対して砂の割合が小さいものを用いた。
- 20 外装のタイル後張り工法において、タイルの目地詰めは、そのタイルの張付け直後に行った。
- 21 コンクリート下地壁のセメントモルタル塗りにあって、下塗りを行った3日後に、中塗りを行った。
- 22 塗装合板型枠を用いたコンクリート面のモルタル塗りにあって、ポリマーセメントペーストを塗布した後、モルタル塗りを行った。
- 23 セメントモルタル塗り仕上げの外壁の改修において、下地コンクリートからのモルタルの浮き部分については、一般に、ダイヤモンドカッター等を用いてその部分の周囲を切断し、絶縁してからはつる。
- 24 せっこうプラスター塗りにおいて、塗り作業中はできる限り通風をなくし、せっこうが硬化するまでは、甚だしい通風を避ける。
- 25 左官工事に用いるラスシート下地において、鉄骨下地にラスシートを取り付ける場合、原則として、ビス締めとする。

施工15 左官・タイル・石工事

- 1 × セメントモルタルの急激な乾燥は水和による強度の発現を妨げるので、避けなければならない。
- 2 × タイルの壁の接着剤張りにおいて、1回の塗り付け面積の限度は、30分以内に張り終える面積とする。
- 3 × 石工事における床用敷モルタルの調合は、セメント1に対し砂4程度で加水し、硬練りモルタルとする。
- 4 × 下地側に塗られるものほど強度を大きくする。
- 5 ○ タイル後張り工法の密着張りにおいて、壁のタイルの張付けは、上部から下部へと行い、一段置きに数段張り付けた後、それらの間を埋めるようにタイルを張り付ける。
- 6 ○ コンクリート床面への塗付けは、コンクリート硬化後、なるべく早い時期に行う
- 7 × 骨材に用いる砂の最大寸法は、塗り厚の半分以下とし、塗り厚に支障のない限り大きいものを用いるものとする。
- 8 ○ 下塗り面には金ぐし類を用いて荒らし目をつける。
- 9 × 改良積上げ張りの1日の張付け高さは、1.5m以内とする。
- 10 × 外部建具周囲の充填モルタルに用いる防水材は、塩化カルシウムなどの金属の腐食を促進するものであってはならない。
- 11 ○ 壁タイルの改良積上げ張りの張付けモルタルの調合は、容積比 セメント1:砂2~3 程度である。
- 12 ○ 改良圧着張りの張付けモルタルは、60分以内に張り終える面積を1回の塗り付け面積とする。
- 13 × 密着張りの張り付けモルタルの塗り圧は、5~8mm程度とする。
- 14 × 1回の塗り厚は、6mmが標準であり、全塗り厚は25mm以下とする。
- 15 ○ 左官塗りの下地としてのALCパネルは、強度・剛性とも小さいので、一般に、厚塗りとはしない。
- 16 ○ 外装に用いるタイル先付けプレキャストコンクリート工法において、タイルの接着強度の合格基準は、0.6N/mm²以上とした。
- 17 × 上下の石材間にスペーサーを挿入して目地幅を調整する。このスペーサーを工事完了後、撤去しないと上部石材の荷重がファスナーではなく、下部石材に伝達されてしまうので撤去する必要がある。
- 18 ○ 下地調整として行うつけ送りは1回の塗り厚を9mm以内とする。塗り厚が大きくなると変形による応力が大きくなり、浮きや剥落の原因となる。
- 19 ○ セメントに対して砂の割合が小さい場合は、砂の量が多い場合に比べ富調合となる。セメントモルタル塗りは、下地に近いほど富調合にし、ひび割れ・はく離等の防止上、上塗りほど貧調合とする。
- 20 × タイル張付け直後にタイル目地詰め作業を行うと、タイルの接着に害をおよぼすので、タイルの張付け後、少なくとも1日以上経過したのちに目地を充填する。
- 21 × 下塗り後、14日程度乾燥期間をとり、ひび割れなどを十分に発生させた後、中塗りを行なう。
- 22 ○ 下地処理の方法として、水洗い、吸水調整剤塗り、ポリマーセメントペースト塗り等がある。
- 23 ○ 下地コンクリートからのモルタルの浮き部分については、一般に、ダイヤモンドカッター等を用いてその部分の周囲を切断し、絶縁してからはつる。
- 24 ○ せっこうプラスター塗りにおいて、塗り作業中はできる限り通風をなくし、せっこうが硬化するまでは、甚だしい通風を避ける。
- 25 ○ 鉄骨下地にラスシートを取り付ける場合、原則として、ビス締めとする。